

特別セミナー

当事者・家族・支援者に優しい統合失調症薬物治療ガイド

- 座 堀合研二郎（YPS 横浜ピアスタッフ協会・シャロームの家）
長： 市橋香代（東京大学医学部附属病院）
演： 橋本亮太（国立精神・神経医療研究センター）
者： 稲田健（東京女子医科大学医学部精神医学講座）
関村友一・みずめ・相沢隆司・堀合研二郎（YPS 横浜ピアスタッフ協会）
加藤玲（東京都新宿区精神障害者家族会「新宿フレンズ」）
討 野村忠良（全国精神保健福祉会連合会（みんなねっと））
論： 都甲令子（国立精神・神経医療研究センター病院家族会「むさしの会」）
横山恵子（埼玉県立大学）
蔭山正子（大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻）

2015年に公開された『統合失調症薬物治療ガイドライン』をもとに、当事者・家族をはじめ様々な立場の支援者が一緒になって作成した、読みやすい『ガイド』が2018年2月に公開されました。

今回はその作業に携わったメンバーの一部が集まり、特別セミナーを開催しました。

診療ガイドラインは医療者と患者が治療方針を共同意思決定する際の判断材料となるものですが、医療者向けに書かれたガイドラインは、文章量が多かったり表現が難しかったりして、患者や家族とともに実際の診療場面で使うのは容易ではありません。

このセミナーでは、まず橋本が『統合失調症薬物治療ガイド』作成の趣旨について説明し、次に稲田がもともとあった『統合失調症薬物治療ガイドライン』について話しました。

次にYPS 横浜ピアスタッフ協会のメンバーが当事者の立場から、『ガイド』を実際に活用する場面を寸劇で再現し、そして加藤が当事者家族の立場から、『ガイド』を使って診療に参加する工夫等について話しました。

最終討論では、さらに2人の当事者家族と2人の支援者が加わって、会場と一緒にやり取りを行いました。

会場に来られた方の中には、今回初めてガイドやガイドラインの存在を知ったという方もいらっしゃいました。自画自賛となりますが、当事者メンバーの寸劇は大好評で、とりわけ「困ったドクター」の熱演（再現）に「あるある」と、場内爆笑の渦だったことには考えさせられました。

このガイドを1つのきっかけとして、精神科治療の場における共同意思決定の文化が普及することを登壇者一同願っております。